



定木良介・林 辰彦・土屋利行著 (2014)

月刊むし・昆虫図説シリーズ4

「日本のマルバネクワガタ」

むし社, A4判136頁, 上製本, 本体価格7.800円

ISBN978-4-943955-44-3

9月も残すところあと数日というある日、本書が届いた。夏の暑さもようやく一段落するこの頃、そわそわと落ち着かない人々がいる。マルバネ屋と呼ばれるその人々は、クワガタ屋の中でも尋常ではない個性、根性、情熱の持ち主が揃う。その第一線で活躍してきた自他ともに認めるマルバネ狂の著者3名により、日本のマルバネクワガタ属だけの本書が出版された(本稿では、属は‘マルバネ’, 種・亜種は‘~マルバネ’と略記する)。

筆者がElytra誌に、アマミマルバネを種に昇格させ、新記録のオキナワマルバネをその亜種として記載したのが1984年なので、今年(2014)で30年目の節目になる。その記載と前後して、筆者自身は9~11月に数週間の休暇をとるなどあり得ないかたぎの職業に就いてしまい、マルバネの時期になると切歯扼腕するしかなく戦線離脱。その後しばらくして、南西諸島通いを始めた著者らは、ある意味プロであり、まさに人生・生活・生命を賭してマルバネの世界にのめり込んだ経緯も感得できる。そして、その集大成的な成果が本書という位置付けになるであろう。

さて、本書は前半のカラープレート・解説編と後半の採集記・座談会・飼育編、更に藤田宏氏の解明小史で構成され、マルバネの魅力(魔力?)を知る者にはたまらない、盛り沢山の内容になっている。カラープレートの生息地のカットは、経験者にとっては原生林の生きものの息づかいとハブの恐怖を想起させ、標本写真も選りすぐりの個体が並び、斜め横からの頭部のカットが添えられて、各種の特徴がわかる。できれ

ば、近年流行りの3D写真も入れて欲しいと思うのは、過度な要求であろうか。解説では、分類学的な歴史、形態、生態などの記述があり、特に生態・生息域の解説は、著者らならではの経験に基づく知見が目玉。種の解説の中で、アマミマルバネの亜種として記載され、従来そのままの扱いになっていたウケジマルバネは、相互の特徴が混在することから、「型」に降格させた扱いになっていることに注目したい(ただし、本書における分類学的な処置はない)。また、形態的特徴の記述に、例えば上翅において、短く幅広、より太い、幅が狭く長い、などの表現が多用されているが、かなり微妙で場合によっては主観的と言えなくもない。ここは、各部の長さを計測して、上翅の場合、長さ/幅の商を求め数値で比較すれば、より客観的で記述の精度が高められるであろう。さらに、母集団に人為的選択がないことが条件になるが、各個体群に出現する大歯型、中歯型などの「型」の割合を、やはり数値で示すことも可能であろう。もう一つ、アカマルバネに関する知見を補足しておきたい。台湾北部の山地では、盛期に林道を歩く本種が多く見られ、側溝に落ちるものも少なくない。降雨があればそれらが流され、一部は河川にまで達して、河口から沖合に運ばれ、さらに海流に乗ることは比較的容易であろう。筆者は実際に、側溝を堰き止めていた落ち葉などの集積物の中に、多数の本種の死骸が混ざっているのを見た

ことがあり、条件が揃えば上記の現象が希有でないことが示唆される。コンクリート製の側溝が近代の産物であることを考慮すれば、今後も含め迷クワガタとなる機会は十分にあると思われる。

「書評」からはいささか逸脱するが、筆者がオキナワマルバネを記載するに至った経緯を、この機会に書き留めておきたい。本種と関わる端緒となったのは、1976年東京農大の2年生になった頃で、昆虫学研究室に保管されていた未整理の標本を見た時からであった。翌77年、



月刊むし・昆虫図説シリーズ4

日本のマルバネクワガタ

定木良介・林 辰彦・土屋利行 著



冬休みに大阪に帰省された岡島秀治博士は、その年の11月、沖縄へ調査に行った大阪市立自然史博の故日浦勇氏を訪ね、同氏が奥川で採集した(捨った?)大型の1♂を預かって戻られた。日浦氏自身「こんな大きなクワガタがまさか未記録だとは」と驚かれたそうだ。これを見せられ、漠然としていた思いが確信となり、78年のシーズンを待って(と言っても、当時のデータで判断したため、最盛期は過ぎていたが)、筆者自身も奄美大島、徳之島、沖縄島のはしご採集を試みた。今では信じられないが、当時は秋季に奄美や沖縄でクワガタ狙いで採集する人などは皆無で、全日程を通じて他の採集者には一人も会わなかったと記憶している。奄美では大破した死骸のみ、徳之島ではハブの恐怖に打ち勝てず、本命の沖縄島でやっと5♂を手にする事ができた。79年には岡島博士らも沖縄島に調査に入り、この時は当たり年だったようで、大小多数の標本がもたらされた。オキナワマルバネを種とするか、アマミマルバネの亜種とするかの見解は、当時、正体もわからない *saundersi* と奄美の大歯型の標本がないとどうしても決定できないが、実はこれが最大の難関で、果たせないままさらに数年が過ぎてしまった。し

かし記載が遅れた分、その後に採集された標本を加えることができ、結果的にタイプ標本を増やすことになった。日浦氏は記載の前年83年に急逝され、直接お礼できなかったのが悔やまれるが、84年に何とか論文を出すことができたのは、農大に標本を残した諸先輩や、協力していただいた多くの人々のお陰で、自ら採集できた記憶とともに、かけがえのない宝であり、人生の支えになっていると言っても過言ではない。本書を手にして、当時の様々な場面が思い起こされ、年甲斐もなく胸が熱くなった。しかし、一方では採集規制という重苦しい現実を、突きつけられているのも事実である(本稿草稿中に、沖縄県国頭村安田地区の規制が加わっていたことを知る)。研究者・専門家側と行政側の関係者間で議論する構造的な制度がないこの国家のしくみに、どれ程憤ってきたことか。筆者自身は、退職してからの楽しみが瓦解して愕然としたが、「大きくなったらマルバネを探りに行きたい」(本書より)という少年の夢が打ち砕かれた現実を、大人としてどう説明すればよいのだろうか。

(境野広行 神奈川県葉山町)

定期購読のご案内

月刊むし

B5判, 56~80頁 毎月20日発売
定価1260円(送料100円)

「月刊むし」は、1971年3月に創刊された昆虫専門の月刊雑誌で、30年以上続いて発行されています。過去のバックナンバーの内容はむし社HPをご覧ください。
<http://homepage2.nifty.com/mushi-sha/>



525号 (2014年11月号)

カメムシ特集号

- カメムシとははじめ
- 海洋島の神話—島と海とカメムシと—
- 樹幹に息づくカメムシたち
～栃木県での観察例を中心として～
- 八重山で虫を見た(7)したたかな虫
～大きなカメムシには大きな寄生蜂～
- ヒラタカメムシ科の採集法
- フィールド画像からの近縁種識別(1)
サトキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲ

昆虫用品は むし社

検索

「月刊むし」定期予約購読

本誌は一般書店での販売のほか、定期予約購読も行っております。定期予約の場合、送料は無料で、次のように誌代も割引となりますので、ぜひご利用下さい。

6ヶ月予約	定価 7560円 →	7300円
12ヶ月予約	定価 15120円 →	14600円
24ヶ月予約	定価 30240円 →	29200円

お申し込み方法

郵便振替用紙に「月刊むし予約」と明記のうえ、下記の口座あてにご送金ください。

郵便振替口座 00160-5-159262 むし社
新規お申し込みは、当月発売分よりとさせていただきます。



月刊むし・昆虫図説シリーズ4

日本のマルバネクワガタ

- 掲載個体数 273頭!
- 島ごとの特徴と違いがよくわかる。
- かつてない詳細な解説!
豊富な野外体験を基にした生態も解説。
- 息を呑む、採集記 15話!

著者: 定木良介・林 辰彦・土屋利行
A4判 136頁 (48カラー頁)

定価 8,424円 (税込み) [送料サービス]

むし社

〒164-0001 東京都中野区中野 2-23-1-209

Tel. 03-3383-1461~1462

Fax. 03-3383-1467